

上毛

3

こうげ町広報 March 2011 VOL.65

CONTENTS

- 町の掲示板..... 2
- 町の話..... 9
- 食を育てる..... 11
- カルチャー..... 12
- 町の情報ひろば..... 14

特集「活かしあうまち」
人と文化が輝く
ふれあいのまち



●編集発行／上毛町役場企画情報課
〒871-0000-2
福岡県築上郡上毛町大字垂水1-3-2-1
TEL 0979-723-111
FAX 0979-724-664

●印刷／築上印刷(有)

人の動き

1月31日現在

- 人口 8,164 (-7)
- 男性 3,881 (-3)
- 女性 4,283 (-4)
- 世帯数 3,099 (-4)

参考

- 平成17年10月11日合併時
- 人口 8,499
 - 世帯数 3,057

ごみの量

1月31日現在

- 可燃ごみ 119.07t (-12.07t)
- カン・ペットボトル 2.40t (-0.62t)
- びん 4.06t (-0.98t)
- 古紙他 17.47t (+2.33t)
- 可燃粗大 1.64t (-1.05t)
- 不燃 5.65t (-3.07t)
- プラスチック製容器包装 2.29t (+0.56t)
- 紙/バック、白色トレイ 0.07t (-0.03t)

緒方観音堂「八ツ手観音座像」

「観音様がいらっしゃるから、ここは大きな災害などありません」と、昔から地域の人たちに「守り観音さん」として大切にされています。

Photo 上毛町フォトクラブ 奥田尚志さん

http://www.town.koge.lg.jp



上毛町文化と歴史を学ぶ会

事務局長
飯田 哲雄さん [土佐井]

先住民からの貴重な贈り物 (地域の文化財)を守る

私の社会教育との関わりは単位子ども会の指導に始まり、子ども会育成連絡協議会の指導部等を通じ、主として子どもと地域社会の融合に努める事でした。その活動の一端として、神社のお祭り行事(例えばお囃子等)を子どもに伝承してもらうため「祭囃子保存会」を立ち上げました。この活動はその後、町の地域づくり活動団体「お囃子嫩(どん)」に発展しました。文化財との関わりは、大平村誌および新吉富村誌の執筆者であり、中学時代の恩師でもある藤井較一先生と「上毛町文化と歴史を学ぶ会」会長を務める宮本工先生の感化で、大平村郷土史会から現在に至るまで三十数年となりました。文化財保護委員としても二十数年務めさせていただいています。それらの経験を生かして、身近にある文化財を住民の皆さんにもっと知って欲しいと思い、町の地域づくり活動団体「上毛町文化財ガイドブック作成委員会」に参加しました。調査のため町内を隅々まで巡りますと、貴重な文化財が荒れ放題になっている地域もあります。私たちの祖先が大事に守ってきた文化財がどの様なものであったのか、ガイドブックを通じて近代社会に取り残された文化財を皆さんにお伝えして、私たちのルーツを探る糧になればと、完成本を目前に日々頑張っています。

将来的には史跡ガイドボランティアとして、町内外の人と交流を図りたい、また、若い人たちに文化財に興味を持って頂きたいという思いがあり、そのためには如何すれば良いかが今後の課題です。まず、私たちの「上毛町文化と歴史を学ぶ会」に入会してみませんか？歴史へのロマンがひらけますよ！

活かしあうまち
人と文化が輝くふれあいのまち
町の歴史的資源である文化財の保存と継承に情熱を注ぐ「上毛町文化と歴史を学ぶ会」のお二人を紹介します。



上毛町文化と歴史を学ぶ会

会員
前田 満さん [中村]

古代のロマンを与えてくれる 遺跡発掘に感謝

現在は、初体験の古墳群の調査に携わり、雑木の株に手を焼きながらも楽しく働いています。地道で細かい作業が続く発掘現場には女性の力が不可欠。彼女たちの頑張りには頭が下がります。古代のロマンを与えてくれる遺跡発掘に、「ありがとう！」と感謝しています。

「上毛町文化と歴史を学ぶ会」のほか、上毛町文化財保護委員として、また、文化財発掘調査作業員として文化財に関わっています。遺跡発掘作業に携わって9年余り、当時は「縄文」・「弥生」の言葉くらいしか理解しなかった私でしたが、実際作業に関わっていくうちにそれぞれの時代の土器、土坑、住居跡等々、遺構について先生や先輩作業員に知識をいただくことができ、文化財への興味が増していきました。新吉・大平・豊前市の現場を巡り、縄文・弥生・古墳・中世の発掘を経験。周辺の四季の移ろいを肌と感じ日々過ごしています。この仕事の楽しみは祖先の人々の生活が想像される遺物に目が触れるとき、特に、ほぼ完全な形で遺物が出土した時は感激し、家族にも説明・報告します。仕事の合間に当時の生活の様子、取り巻く環境等を想像することも楽しい一時です。今では近辺の展示会、現地説明会も機会をみては参加し、知識を得るようになりました。また、先輩作業員との出会いで知識を得たり、この年齢になって友だちもたくさんできました。

上毛町文化と歴史を学ぶ会
平成18年6月に「新吉富村文化財保存会」と「大平村郷土史会」が合併して設立。現在、会員55名で、研修会を開催しながら地域の歴史を学び、文化財への愛着を深めています。

こんにちは。企画情報課の森重一です。

編集後記

すっかり春めいてきました。徐々に日照時間も長くなり、散歩の服装もずいぶんと身軽になってきたのではないのでしょうか。今月の特集では、町の文化財を取り上げました。町のあちこちに点在する文化財をたどってみると、地域の風土や歴史・文化を肌で感じ、この地で生活していた先人たちの姿が目に見えてきます。奈良時代の郡役所である「大ノ瀬官衙遺跡」をはじめ、10年前には唐原で弥生時代の環濠集落跡が見つかるなど、上毛町は歴史的意義の深い「歴史遺産の町」です。しかし、まだまだ認知が十分進んでいないのかもしれない。現在、神楽やお田植祭の伝承、修験道遺跡や百留横穴墓群、吉岡巨石塚の保全、また、文化財ガイドブックの作成等々、文化財を守り次世代に受け継ぐための活動が、地域の皆さんによって活発化しています。そんな皆さんの思いは、先人たちが築いてきた貴重な文化財への関心の高まりであり、個々の由来などを知れば知るほど歴史ロマンを感じることができるといいます。うららかな春の日、散歩ついでに町の文化財を訪ねてみてはいかがでしょうか。